

大会名 Competition	第72回 秋田県秋季男女総合バスケットボール選手権大会
男子決勝	Year Month Day Time 2017 年 9 月 24 日 12 : 00
場所 Place	鹿角トレーニングセンターアルパス



秋田県バスケットボール協会

チームA		チームB					
能代工高	<table border="1"> <tr><td>13 1st 14</td></tr> <tr><td>22 2nd 16</td></tr> <tr><td>21 3rd 21</td></tr> <tr><td>28 4th 29</td></tr> <tr><td>OT</td></tr> </table>	13 1st 14	22 2nd 16	21 3rd 21	28 4th 29	OT	秋田教員
13 1st 14							
22 2nd 16							
21 3rd 21							
28 4th 29							
OT							
84 ○		80 ●					

主審:Referee
谷地 温 秋田
副審:Umpire
田中 直幸 秋田
相澤慎之介 秋田

テーブルオフィシャル:Table officials
鹿角市バスケットボール協会

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
4	×	児玉 凜斗	CAP	26	4	7	0	1	0	×	阿部 匡宏		8	2	1	0	2
5	×	児玉 海渡		12	0	3	6	1	2		澁谷 善洋		-	-	-	-	0
6	×	新田 由直		14	1	4	3	5	3		平山 智哉		-	-	-	-	0
7	/	石田 淳		4	0	2	0	2	9	×	永須 亘		17	5	1	0	3
8	×	守屋 壮次郎		11	2	2	1	2	12	/	館岡 滉人		5	1	1	0	1
9	×	齋藤 創		12	3	1	1	4	11		小玉 智和		-	-	-	-	0
10		牧野 湧		-	-	-	-	0	13	×	加賀谷 剛		3	0	1	1	3
11		大日向 祐揮		-	-	-	-	0	14		丸山 真弥		-	-	-	-	0
12	/	高橋 日向		1	0	0	1	0	15		澤木 優弥		-	-	-	-	0
13		伊藤 翼		-	-	-	-	0	16		館岡 修人		-	-	-	-	0
14	/	秋元 淳之介		4	0	2	0	3	17	×	河村 圭亮		21	4	4	1	2
15		須藤 陸		-	-	-	-	0	18	×	畑澤 哲平	CAP	11	0	4	3	3
16		阿久津 穂		-	-	-	-	0	26	/	藤井 了彰		0	0	0	0	0
17		遠田 貴大		-	-	-	-	0	29	/	石川 朝		6	0	3	0	0
18		寺井 吏己		-	-	-	-	0	31		工藤 達也		-	-	-	-	0
19		上村 悠真		-	-	-	-	0	54	/	河村 佑亮		9	0	4	1	4
20		角田 翔		-	-	-	-	0	71		成田 海		-	-	-	-	0
21		藤岡 俊哉		-	-	-	-	0	76		藤原 正貴		-	-	-	-	0
コーチ		小野 秀二							コーチ		平山 智哉						
Aコーチ		杉 沢 政							Aコーチ		阿部 匡宏						
合計				84	10	21	12	18	合計				80	12	19	6	18

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P率 インテュート 2P:2P率 インテュート FT:フリースロー F:ファウル

能代工業はオールコートマンツーマン、秋田教員はオールコート1-2-1-1ゾーンプレスからハーフコートマンツーマンでスタート。

第1Q、開始早々に秋田教員#18畑澤が先制点を決める。対する能代工業は#4児玉(凜)がリバウンドシュートを決めると、厳しいディフェンスで相手のミスを探し、引き続き#4児玉(凜)のシュートで流れを掴む。しかし、秋田教員は#18畑澤のポストプレー、#17河村(圭)の3Pシュートで応戦し、一進一退のゲーム展開となり、13-14の秋田教員リードで1Qを終える。

第2Q、能代工業#4児玉(凜)がシュートを決めると、秋田教員は#15澤木のアシストパスから#18畑澤がシュートを返すなど、点の取り合いになるが、残り4分半、能代工業#4児玉(凜)の3Pが決まり点差が7点差まで開く。その後、秋田教員は、#17河村(圭)の3P、#18畑澤のフリースローで点差を詰めるも、能代工業のフリースローが決まり、能代工業35-30秋田教員で前半を終了。

第3Q、互いに3Pで応戦するも、能代工業は粘り強いディフェンスとボールへの執着により秋田教員のミスを探し、9点差とする。秋田教員が5分27秒でタイムアウトを取り、タイムアウト後シュートを決めるも、すぐさま能代工業が反撃。残り4分、#9齋藤の3Pで最大11点差まで開くが、秋田教員もオフェンスリバウンドやドライブでシュートチャンスを増やし応戦する。終盤、能代工業#4児玉(凜)が3Pを決めるが、秋田教員も#0阿部が3Pを入れ返し、56-51と能代工業リードで第3Qを終える。

第4Q、能代工業#6新田がバスケットカウントを決めるも、秋田教員#29石川と#12館岡(滉)のコンビプレーですぐに点を入れ返すと、秋田教員#12館岡(滉)の3P、#18畑澤のドライブから#9永須への合わせのパスでシュートが決まり、3点差まで詰め寄る。その後、点の取り合いになるが、秋田教員のパスミスから能代工業#4児玉(凜)の3Pが決まり、点差が11点になったところで秋田教員がたまたまタイムアウト。タイムアウト後、秋田教員は速いパス回しから、#17河村(圭)の3Pが決まり、追い上げを図る。さらに、残り2分9秒能代工業#6新田がファウルアウトし、能代工業がタイムアウトを取る。その後、秋田教員は#9永須の3Pを中心に粘りを見せるが、最後は能代工業が逃げ切り、84-80で試合終了。2年ぶり12回目の優勝を飾った。